

# 金剛寶戒寺便

<https://www.houkaiji.jp>

令和五年一月一日発行 第一〇六号

新年あけましておめでとうございます。檀信徒の皆様と金剛宝戒寺にとつて飛躍の一年となりますことを元旦より祈念いたしました。昨年、これまで二回のお手紙と三回の説明ならびに質問会を行い、当山千三百年記念事業の意義をお話しさせて頂きました。

今回の記念事業での趣旨を一言で表すと「三方よし」です。通常、「三方」とは売り手よし、買い手よし、世間よし、を言いますが、本記念事業では「三宝よし」を目指しています。三宝とは「仏法僧」のことです。仏とは仏様（ご本尊様）法とは仏の教え、僧とは仏法を信仰する僧侶や檀信徒様のことです。法要会館を併設した庫裏を建立し、ご本尊様が喜び、法（教え）を広める場が整い、寺族と檀信徒様に喜んで頂ける立派なお堂を建立することが目的です。

先月のお便りにも書きましたが、約三十年前には自宅での葬儀も少なくありませんでした。今、私が提案しているのは当時、自宅で行っていたお葬式をお寺で執り行うイメージです。したがって、葬儀社が仕切る葬儀から喪主家主導型のお葬式が出来る環境を整えたいと思っています。実は今回の提案は、手作りの結婚式にヒントを得ています。必要と思うことにはひと手間かけ、そうでないものは

省く。例えば身内ばかりの家族葬に司会者は必要なのでしょうか？必要であれば親族の中から進行役を出しても良いのではないかと私は思うのです。プロのようになめらかな司会進行にはならないかもしれませんが、気持ちのこもったご案内になると思います。また、お棺を移動させるのも自分たちで行うことになるかもしれません。優しかったお祖父ちゃんやお祖母ちゃんのお棺を持ち上げたときに、こんなにも軽かったのか、あるいは重かったのかと、身をもって知ること、本当の命の重みや、一族の継承が行われるのではないかと思うのです。

実際、私自身も父を送り出した時にその様に感じましたし、担い手がいないお葬式の時には一緒に棺を運ぶこともあります。

もちろん、このような葬儀を無理にお勧めするわけではありません。現状のような葬儀を希望する方には、その様にしていたらと思えます。肝心なのは大切な故人様を送り出すときに喪主家の方々が主となり、選択が増えることだと思っています。

最近、終活のご相談を受けることが増えましたので成年後見人についてお話して頂きます。

日時 二月八日（水曜日）十四時から

会場 金剛宝戒寺 本堂において

演題 「成年後見人になること」

講師 社会福祉士 鹿嶋隆志さん

皆さんは年末にあったサッカーワールドカップを観ましたか？私は日本対スペイン戦に「神」を見た気がしました。それは日本代表の神がかり的な勝利ではなく、あの三苦選手の切り返しの判定に「神」を感じました。過去においては、あのような判定には多くのクレームが付き、時によってはフリーガンと呼ばれる人たちによって暴動が起こっても不思議ではなかったと思います。しかし今大会から導入された「AI」の判定に（不服や反論があったとしても）一定の理解を示し、試合が継続されたことに驚きました。

日本の神様は八百万の神で、山にも海にも川にも神が存在するのに対し、西洋の神はこの世の創造主であり絶対神で、その点が大きな違いです。そして死後においても判定（ジャッジ）を下し天国や地獄行き決めると聞きます。果たして西洋の神とは人間が創り出した存在なのか？永遠に問われている疑問です。時代は科学信奉者が増え、科学の下した判定は受け入れやすいようです。きっとそこには、私情が挟まれないからでしょう。それによって戦争が無くなるのであれば歓迎したいところでもありますが、実際には難しいかもしれません。興味心からサッカーグラウンドの広さを調べたら国際大会でも縦、横ともに10メートル位の誤差が認められていることを知りました。その中で「三苦の1ミリ」を判定したのは当に神がかりだと思えました。